

## JCI-TC103A 「社会情勢とコンクリート産業構造の関連性検討委員会」

### 第二回全体委員会 議事録

日時：2010年7月6日（火） 15:00-18:00

場所：(社) 日本コンクリート工学協会 第3会議室

参加者：加藤委員長，伊代田幹事長，伊藤幹事，兼松幹事，小島幹事，大内委員，竈本委員，佐藤委員，杉山委員，鈴木委員，田中委員，谷口委員，西脇委員，湊田委員，松本委員，Michael 委員，森川委員，山崎委員，福林様（事務局） 計 19 名

配布資料：

- 資料 No.2-1 第二回全体委員会議事次第
- 資料 No.2-2 第一回全体委員会議事録(案)
- 資料 No.2-3 第一回全体委員会資料[再配布]
- 資料 No.2-4 アンケート回収分
- 資料 No.2-5 魚本教授推薦図書一覧
- 資料 No.2-6-1 コンクリートはフローではなくス\*\*\*である
- 資料 No.2-6-2 どうなる？セメント需要 セメント新聞連載（全 27 回）
- 資料 No.2-7 学会に建築界の明日は語れるのか？\_千葉利宏（建築学会）

#### 1. 委員長挨拶

次回の全体委員会を目途にWG配属を決定し、その後WGの活動に入って行く予定で考えている。本日の全体委員会では、おぼろげな方向性を議論したいと考える。この委員会での議論には、何が正解で、何が不正解かはないので気軽なご意見をいただきながら、活発な議論をお願いしたい。

#### 2. 第一回全体委員会議事録（案）確認

伊代田幹事長より資料 No.2-2 を用いて前回議事録(案)が確認され承認された。

#### 3. 前回欠席委員の自己紹介

前回欠席された委員の自己紹介と抱負が語られた。

#### 4. 委員会方針に関する議論

資料 No.2-4 をもとに、順番に委員各位からの意見や思いをお話しいただき活発な議論を行った。議論の中心になった事項を以下にまとめる。

- ・将来の理想像を設定したうえでの議論をしていく方法をとることも重要であると考え。
- ・国際情勢の調査には、先に事例の豊富な先進国を調査する方法と、今後の市場としての途上国の市場調査を行う二つが存在する。本委員会では先進国での事例を調査して、今後の日本の参考になるかどうかも含めた議論をしていきたい。なお、市場開拓については経済状態など複雑な事由もあることから論点から外したいと考えている。

・海外での建設においては、建築・土木のみならず設計・施工・材料とそれぞれの立場により可能性はさまざまである。国が変わると大きく情勢が変わるので、それぞれの立場で議論すべきである。

・国内での産業規模維持のためにどうしていくべきかという議論と、多少規模は縮小しても健全で魅力的な産業にするという議論がある。前者は海外進出の可能性が高い。後者については、是非とも深く議論を進めたい。

・若者が魅力を感じてくれることは何なのかを議論する必要がある。たとえば利益率向上が考えられるが、それだけでは学生は魅力を感じないと考えられる。現在の学生の就職希望先を鑑みれば、実労働時間（少ない残業時間）、適正給与、育児休暇取得、転勤の少ない職場、安定産業などを建設業でも可能なのかを考える必要があるのではないかと。

・環境問題の議論も今後していく必要がある。

・建設に携わる人員は本当に余剰なのか？実際の現場や施工会社では人員不足という声を聞こえてくる。適切な仕事量・作業量ではないのが問題なのではないかと。

## 5. 話題提供（大内委員）

大内委員より、資料 No.2-6-1 をもとに 1960 年ほどから現在までの様々な統計資料をもとに建設投資の減少、セメント消費などをご紹介いただいた。またセメント・コンクリート重要に関しての「フロー」と「ストック」についての説明や先進諸国との比較を“コンクリート増加率”という指標を用いてご紹介いただいた。人口減少のことも考え、今後のビジョンを考えるための参考となる話題提供をいただいた。

## 6. その他

加藤委員長より 11 月 10 日に ICUS で行われるオープンレクチャーの紹介が行われた。東京大学小澤教授、香川大学堺教授、ジャーナリスト千葉様の講演を企画しており、どなたでも無料で聴講可能である旨を紹介された。

●次回全体委員会：2010 年 9 月 6 日（月） 15:00-18:00

以上 （文責：伊代田）